

バターというと十勝、十勝といえば酪農。ホルスタインがいて草原が広がっていて、春には花が咲いているイメージだ。



バイオガスプラント事業などについて質問する林社長

配って必要な対策はしっかりやらせていただく。現在、TPP11の牛肉関税は38.5%から26.6%まで12ポイント弱下がつている。ただ国産牛、F1（交雑種）、黒毛の価格が大きく下がったかという、そういうことは今のところ起きていない。

農家の不安感はわれわれが大きな責任を負い、現場に足を運んで解消したい。ただ、不安が先に立って営農を諦めるのは良くない。私の地元もTPP11の議論のところに営農をやめた人がいるが、ほぼ例外なく後悔している。

お金を積むから良いのではなく、どのように皆さんに活用されて現場で効果を発揮するかが大事。畜産クラスター事業、産地パワーアップ事業の要件を見直したり、使いやすようにしたりすることも大事になる。（牛肉の関税について）今は26.6%だが、最終的には9%まで下がる。ステージが変わっていくので、アンテナを高くする。

林 最近自然災害が増えている。十勝も16年8月に台風が発生、農地も大きな被害が出た。災害への対応策についてはどのように考えているか。

江藤 昨年大雨、台風では4637億円の被害が出た。（被害のあった）茨城県や千葉県の農家と話すと「今までは台風は来なかった」と言う。北海道もそうだろう。胆振東部地震でも大変な被害があり、電気が止まって酪農家は生乳を廃棄処分しなくてはならなかった。災害が常態化するという前提に立つ

林 日米貿易協定が1月1日に発効された。日欧EPA、TPP11もあり、農家は不安を覚えている。国内農家への支援策についてはどう考えているか。

江藤 農家にすれば、外的要因によって関税が一方的に変えられた。国が支援をするのは当たり前で、常に現場に目を

て、国土強靱（きょうじん）化をやらないといけない。農水省であれば、ため池、農業用水、利水施設だろうが、1級河川、2級河川など国土強靱化をトータルパッケージでやらなくては。

## ◆パッケージで災害に対応

台風常襲地域のハウスは、コンクリート基礎を打って建てるのが常識。茨城や千葉のハウスはねじ式でねじ込んで留めているだけ。それを責めているわけではなく、昔はそれで良かったということ。災害復旧の基本理念は原形復旧だが、自然環境が変わっている現状にあっては、災害に強い基盤をつくっていきながら、生産性の高い復旧を考えなければならない。

林 十勝では牛の頭数を増やすのは可能だが、ふん尿の問題がある。バイオガスプラントを積極的に増やしたい一方で、発電した電気を送る送電網が脆弱（ぜいじゃく）で対策が急務。大臣の考えを。



国内農家への支援策に言及した江藤農水相

江藤 飼養規模50頭未満は1頭当たり24万6000円、50頭以上は17万5000円の増頭奨励事業を組んでいる。増えれば出すものは出す考えだ。

野積み禁止になって、しっかりとしたストラクチャーのもとでふん尿等を管理しなければならないとなった。北海道は規模が大きい。フリーストールで敷料

がベチャベチャになって堆肥化するのも難しいということであれば、バイオガス発電に関心を持つことは良いこと。

2019年の予算でも支援することになっているし、補正でもやらせていただく。ふん尿処理は大事で、それが地域の電力の地産地消によって解決できるのであれば、そして農家が電気を買わなくて済むのであれば、農家の所得向上につながる。積極的に応援したい。

現在、FIT（固定価格買い取り制度）の買い取りをやめる方向にあるが、方向性としてバイオマス